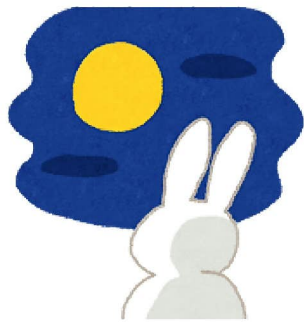


せったん

第148号 2013年10月25日

発 兵庫県保険医協会北摂・丹波支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
行 TEL078-393-1801 (代) FAX 078-393-1802

北摂・丹波支部



市民公開
企画

映画「モンサントの不自然な食べもの」 上映会&学習会に130人が来場

感想文 恐ろしい食料支配すすめるTPP

北摂・丹波支部は9月1日に市民学習会を三田市キッピースモールで行い、130人が参加した。映画「モンサントの不自然な食べ物」上映会とひょうごの在来種保存会代表の山根茂人氏による講演会「生命の源は種から」を行った。司会の中西透先生の感想文を掲載する。(兵庫保険医新聞9月25日号に感想文掲載)

北摂・丹波支部主催で市民対象にした学習会と映画会を行い、和歌山・岡山からの出席もあり参加者は130人に達しました。

現在、わが国の食料自給率はカロリーベースで換算すると約40%程度で、TPPに加入すればより低下が進むことが確実で、国内の零細な農業に大きなダメージを与えるのは確実です。ただ生産能率だけ追い求め、ヒト・家畜に悪影響を与えるような食糧を生産してはならないと思います。山根さんは長年にわたる研究の末、岩津ネギを復活させ、県内の在来種の保存に努められています。

種子説明によると、F1種(二代限り)は生産者では自家採種できず、買い続けなければならぬため生産や価格を種メーカーに委ねなければならないのです。また、シュワルツエネッガーの映画であ



講師の山根成人氏



司会を務める中西透先生

るように「ターミネーター」は断ち切る(抹殺する)意味があり、種においてターミネーター種とは自殺する種で、遺伝子操作により発芽の際、組み込んだ遺伝子が毒素を出し自殺させてしまう。このような種子によって食料がアメリカにより支配されることは驚きました。

モンサントは創設者の妻の名前から社名が付けられ、米国に本社を置く多国籍企業でサッカリン、PCB、ベトナム戦争で使用された枯葉剤、成長ホルモンをもつ遺伝子組み換え種子と農薬をベアー販売している世界屈指の企業です。

この映画は多くの隠された裏の姿をドキュメンタリーにしたもので、種子によって世界の食料支配を試みているのです。それは化学兵器よりも恐ろしいことです。

TPPは、環太平洋での米国の仕掛けた静かな戦争であると言ってもよいでしょう。

【三田市・歯科 中西透】

改定医療法対策 院内感染対策研修会 Part ⑬

「外来での院内感染対策の基本」

～これだけは押さえない！標準予防策と手指衛生～

今回は、院内感染対策の基本に立ち返って、標準予防策(スタンダードプレコーション)や、感染対策の最も重要な手指衛生、手指消毒薬の使用法、防護具の着脱等についてお話しいたします。当日は、蛍光式手洗い練習器を使用して実際にきちんと手洗いが出来ているかの実習や、防護具の着脱練習も行い、体を動かして日頃の業務を見直します。



日時 11月16日(土) 18時～19時30分
会場 三田市総合福祉保健センター3階 会議室3・4
講師 小川 麻由美氏(済生会兵庫県病院 感染管理認定看護師)
参加費 1,000円 ※受講された方には受講証を発行します



◆映画『モンサントの不自然な食べ物』
監督：マリー＝モニク・ロバン
製作：2008年 フランス・カナダ・ドイツ合作
時間：108分
解説：アメリカに本社を構え、世界の遺伝子組み換え作物市場で90%のシェアを誇るアグロバイオ(農業関連生命工学)企業「モンサント社」の裏の姿に迫ったドキュメンタリー。遺伝子組み換え作物はもちろん、枯葉剤、農業、牛成長ホルモンなども扱ってきた同社の1世紀にわたるベールに包まれた歴史を、貴重な証言や機密文書によって検証。自然界の遺伝的多様性や環境への影響、農業に携わる人々の暮らしを省みない、現代社会の「食」の経済構造に疑問を投げかける。



挨拶をする森下順彦支部長



会場一杯の130人が参加

歯科部会&北摂・丹波支部 社保・審査、指導対策 歯科会員懇談会

感想文

縦覧・突合点検での注意点をくわしく解説



ざっくばらんに質疑応答や意見交換を行った

歯科の社保・審査、指導対策についての懇談会が、北摂・丹波支部で企画され、20人の参加があった。
電子レセプト請求に対して、縦覧・突合点検が基金の審査で始まり、強化されたなかで、特に協会への質問が多い、P治療の流れと保険請求上の注意点を

解説していただいた。
歯科部会の工藤大八郎先生から、審査がどのように行われているか、具体例を挙げての説明を受け、紙では分からないことが電子レセプトでは査定されてしまうことが理解できた。加えて、定期的になりコールで呼んでの算定には注意が必要で、別に病名(例・HYSなど)があれば、もれないよう記載することが必要だと強調された。
続いて錦和彦先生には、縦覧・突合点検での注意点をくわしく解説歯周病治療の注意点について講演いただいた。
切開がある場合のPノラマ算定には注意が必要であること、歯周基本検査から次の検査



までの日数、その後の精密検査は歯周外科へ移行するはずとのこと、その他詳細な説明に学ばせていただき、頭の下がる思いであった。
その後、参加者から自己紹介と疑問点を順に話していただいたが、皆さんレベルの高い内容で、特に白板を用いた熱の入った質問に、歯科部会の川村雅之先生が丁寧に答えられていたのが印象的だった。限られた時間だったが、議論百出、とても内容の濃いものであった。
終了後の懇親会は、三田の創作料理屋で、大変盛り上がり上がったことは、ご想像の通りである。
【三田市・歯科 福田 俊明】

篠山市

篠山市の医療をよくする会講演会

反核平和を求め原発ゼロを



実際に見た福島の状態を報告する郷地秀夫副理事長

郷地先生は、広島原爆やチェルノブイリ原発事故と福島原発事故を比較して、放出された放射線量の具体的な数値の違いを示すとともに、外部被曝と残留放射線被曝の中心である内部被曝との違いや、内部被曝の特徴等について詳細に解説した。
また、昨年11月に福島県双葉郡大熊町を訪問して行った放射線汚染調査の状況にも触れ、除染作業によって地表などからの放射性物質は減少し

北摂・丹波支部が参加する「篠山市の医療をよくする会」は、9月7日に丹南健康福祉センターで講演会を開催。「福島の今」被爆者医療からみた原発事故をテーマに、郷地秀夫協会副理事長が講演し、市民ら50人が参加した。

ているものの、現在も空気中を飛んでいることや、震災時に着の身着のまま避難した住民は次の生活のめどが立たないまま苦しい生活が続いていると報告した。
最後に郷地先生は、「広島・長崎での原爆による被爆者に対し『戦争という国の存亡をかけたの非常事態の元においては：何らかの犠牲を余儀なくされたとしても：全ての国民が等しくこれを受難しなくてはならない』とすることで戦後補償を制限する政策と同じ思想が、原発事故の被災者に対してもある」とし、「原爆放射線被害の実相を明らかにし、反核平和を求め、原発ゼロをめざすことが求められている」と強調した。



市民の関心が高く郷地先生への質問が相次いだ

篠山市の医療をよくする会 第6回総会

記念公演

「『国民会議』の報告でどうなる社会保障」

講師：神戸大学名誉教授 二宮厚美先生

日時：11月24日(日)午後2時～

会場：篠山市・丹南健康福祉センター

